

2001-1
M
6001

大東亞戰爭全史

草案

目次

0003

才一卷

目

次

才一篇 開戦の経緯

才一章 歴史の展望

一、明治大正時代

二、満洲事變

三、支那事變

四、支那事變を繞る列國の動靜

才二章 才二次近衛内閣の登場と新国策の

決定

一、才二次近衛内閣の登場

二、劃期的新政策

三、新政策の意義

才三章 日獨伊三國同盟条約の締結

一、同盟の主なる対象の變遷

三、松岡ハタリマー会談

三、御前会議

四、条約の成立とその後の發展

才四章 支那事變解決への努力

一、北部佛印進駐

二、對華長期戰態勢への轉移

三、国内体制の強化

才五章 對南方施策の進展

一、對蘭印施策

二、對佛印、泰施策

三、「時局処理要綱」の清算

才六章 日米交渉の開始

一、事前工作

0004

二日ソ中立条約

三日米諒解案の到着

四松岡外相帰朝後の接衝

才七章 南部佛印進駐

一、南方情勢の悪化

二、南部佛印進駐決定の経緯

三、平和進駐

才八章 獨ソ開戦に伴う新函策

一、大本營陸海軍部の討議

二、連絡懇談会に於ける松岡外相の対ソ開

戦論

三、七月二日の御前会議

四、関特演

才九章 対米英蘭戦争を辭せざる決意

一、松岡外相の退場

二、日本の苦悶

三、「帝國々策遂行要領」の討議

四、九月六日の御前会議

五、御前会議決定に基く政戦略の進展

才十章 対米英蘭戦争決意

一、東条内閣の出現

二、国策の再検討

三、深夜の激論―歴史的連絡会議

四、十一月五日の御前会議

才十一章 開戦の聖断

一、和平への最後の努力

二、併進する戦争準備

三、萬事を決したハルノート

0005

才二篇 開戦

四 開戦の望断下る

五 対米交渉打切通告

才一章 日本ノ統帥及び戦争指導機構

一 統帥機構

二 戦争指導機構

才二章 戦争計畫の基礎的諸問題

一 国防方針、用兵綱領、年度作戦計畫

二 戦争相手—米英蘭の可分不可分論

三 歐洲戦局及びソ連の動向判断

四 南方攻略領域及び攻略順序

五 開戦時機

六 敵國の軍事情勢

七 物的国力の推移判断

八 作戦の見透し

才三章 戦争指導計畫

一 戦争目的

二 戦争終末促進に關する腹案

三 戦争經濟基本方略

四 占領地行政実施計畫

五 日獨伊提携強化方策

六 対泰施策

才四章 大本營の作戦計畫

一 陸軍の作戦計畫

二 海軍の作戦計畫

才五章 開戦時の日本陸海軍

一 陸軍兵備

二 陸軍作戦資材の整備及び軍需工業の擴充

0006

三、教育訓練

四、陸軍の戦争発起態勢

五、海軍兵備及び訓練

六、海軍の戦争発起態勢

才六章 戦争発起

一、進攻作戦開始命令

三十二年八月

三、「機密戦争日誌」戦争才一日

才七章 布哇作戦

一、真珠湾攻撃

二、作戦準備

三、機動

四、攻撃実施及び帰還

五、奇襲成功の真因「ロバーツ委員会報告

0007

才二卷 目次

才三篇 進攻作戰

才一章 南方攻略作戰の初動

一、南方軍及び聯合艦隊の指導

二、対泰進駐

三、馬來作戰の発起

四、英極東艦隊の覆滅

五、比島作戰の発起

才二章 中国方面に於ける作戰

一、香港攻略作戰

二、租界の処理と米英武力の掃蕩

三、開戦に伴う対重慶作戰

才三章 中用部太平洋方面攻略作戰

一、グアムの攻略

次

ニウエーキの攻略

三、長驅ラパウルの攻略

才四章 南方攻略作戰の進展

一、シンガポールの攻略

二、マニラの攻略

三、ビルマ作戰

四、蘭印作戰

五、バタン半島攻略戰

才五章 攻略作戰終末に伴う戦争指導

一、進攻作戰の進展に伴う攻略施策

二、世界情勢及び既得戦果の判断

三、濠洲攻略に関する陸海軍の論争

四、爾後の戦争指導大綱

0008

才六章 外郭要地に対する積極作戦

一、セイロン島に対する航空進攻作戦

二、ポートモレスビー海路攻路作戦と珊瑚

海海戦

三、フィジー、サモア、ニューカレドニヤ

作戦の準備

四、ミッドウェイ、アリュウシヤン作戦決

定の経緯

才七章 米機の本土空襲

一、米機動部隊の出現と我が海軍の遊撃準備

二、敵機の奇襲

三、浙嶺作戦の発動

才八章

ミッドウェイの敗戦とアリュウシヤンの攻路

一、作戦地方面の状況

二、ミッドウェイ、アリュウシヤン作戦の構想

三、ミッドウェイ作戦の経過

四、アリュウシヤン要地攻路作戦の経過

五、海洋主動權の転移と敗戦の秘匿

才九章 防衛態勢の整備

一、大本營の指導

二、南方占領地行政の滲透

三、陸軍の重慶進攻作戦構想

才四篇 米軍の反攻開始

才一章 ガダルカナル島を中心とする

南東太平洋の激闘

一、ポートモレスビーに対する陸路進攻

0009

二 ガダルカナル島に対する米軍の反攻開始

三 大本營の情勢判断と処置

四 一木支隊の攻撃と才二次ソロモン海戦

五 海軍部隊によるミルン湾攻撃

六 大本營の指導と川口支隊の攻撃

七 南海支隊の後退

八 才二師団の攻撃準備とサボ島沖夜戦

九 才二次總攻撃の失敗

十 大本營のカ島奪回新構想と才八方面軍

の設置

才二章 国刀の造成と作戦との調整

一 戦争指導の鍵、船舶問題

二 海軍のタンカー解備を繞る論争

三 七月陸軍二〇万總噸の徵備

四 敵の反攻激化に伴う世界情勢判断

五 カ島を繞る深刻な船舶問題

六 十二月十日の御前に於ける大本營政府

連絡会議

才三章 対華政略の變貌

一 大東亞省設置を繞る政局破瀾

二 対華政略の轉換

一 対支處理根本方針の御前會議決定

二 新政策の策定
三 國民政府參戰と日華新協定

才四章 ガダルカナル島よりの撤退

一 才八方面軍司令部の進出を待つ南東方面

二 才八方面軍殲勢挽回の努力

三 大本營のカ島撤退決意

四 方島撤退

五 フナ地区よりの撤退

六 戦勢王動權の転移

才五章 情勢の進展に伴う対獨伊施策

一 印度、アラビヤに対する日獨伊共同宣言問題

二 獨ソ和平問題と獨の日本に対する対ソ参戦要望

三 遺獨伊連絡使節の派遣

四 昭和十八年二月末に於ける世界情勢判断

才五篇 前方要域に於ける作戦と絶対国防圏の設定

才五篇 前方要域に於ける作戦と絶対国防圏

の設定

才一章 南東太平洋方面の戦備強化

一 ソロモンよりニューギニアへ

二 ソロモンの防衛

三 ダンピールの悲劇

四 聯合艦隊のラバウル進出と山本元帥の戦死

五 ニューギニア背後飛行場に対する空挺作戦準備

一 ベナベナ、ハーゲンの脅威

才二章 南西方面の戦備強化

一 昭和十八年初頭の敵情判断

二 南西方面作戦要領の決定

三 アキヤブ作戦と北瀬の掃蕩作戦

四 ビルマ防衛機構の刷新強化

五 才十九軍の新設その他

0011

才三章 太平洋離島の戦備強化

一、海軍の戦略思想

二、才一、次陸軍兵力の派遣

才四章 アッツの玉碎

一、北東方面に対する大本營の指導

二、アッツの死闘

三、キスカ撤退

才五章 南東方面敵反攻の激化

一、中部ソロモン作戦

二、サラモア、ラエの激戦

才六章 大東亜戦略指導

一、対華新政策結実への努力

二、大東亜戦略指導大綱の御前会議決定

三、ビルマの獨立

四、比島の獨立

五、自由印度假政府の樹立

六、東印度原住民の政治参与

七、対泰施策

八、日華同盟条約の締結とその後の対重慶

政治工作

九、大東亜会議

才七章 情勢の推移に伴うその後の対外施策

一、戦争指導に関する日独の見解対立

二、対ソ静謐保持への努力

三、伊國の降伏と三國共同戦争の破綻

四、カイロ会谈及びテヘラン会谈と歐洲和平説

才八章 絶対国防圏の設定に伴う政戦略の進展

一、大本營の敵情判断

0012

三 大本營作戰方針の変更

三 九月二十五日の連絡会議

四 戦争指導大綱の御前会議決定

五 その後の船舶問題

六 国内施策の進展

才九章 新作戰方針に基く大本營の指導

一 南東方面

二 蒙北方面

三 中部太平洋方面

0013

才三卷

目

次

才六篇 絶対国防圏の崩壊

才一章 国防圏前衛線の逐次崩壊

一、国防圏前衛線に対する連合軍の急追

二、現地軍の持久作戦計畫

三、ダンピール西岸の激斗とボーゲンビ

ル島の無力化

四、ギルバートの失陥とフィンシユハー

フエン奪回企図の放棄

五、四部ニューブリテンの激斗とダンビ

ールの崩壊

六、マーシャルの失陥とトラックの無力化

七、バウルの孤立

才二章 絶対国防圏の戦備強化

一、情勢判断

二、中部太平洋艦隊及び才三十一章の新設

三、中部太平洋洋に対する兵力増強

四、聯合艦隊司令部の遷移

五、才十八軍の隷屬転移

六、北東方面の戦備強化

七、台湾及び南西諸島の戦備強化

八、陸海軍統合問題

九、十一号作戦準備

十、南方軍の新態勢

十一、本土防衛態勢強化

才三章 番号作戦計畫

一、敵情判断

0014

二 作戰計畫

才四章 西部ニューギニアの作戰

一 濠北の作戰準備

二 南方島の決戦企図

三 ホルランダヤ問題

四 サルミ作戦

五 ビアク作戦

六 アイタベ作戦

才五章 マリアナの失陥

一 敵のマリアナ米襲

二 比島沖海城一あ号作戦

三 太平洋の防波堤潰ゆ

才六章 東条内閣の総辞職

一 マリアナ敗戦の衝撃と和平気運の萌芽

二 東条参謀総長の更迭

三 重臣及び木戸内府の動向

四 内閣改造の行詰りと総辞職

五 重臣会議

六 小磯米内連立内閣の成立

才七篇 大連方面の作戦

才一章 イムパール作戦

一 印度進攻作戦構想の芽生え

二 作戦準備発動の経緯

三 怒江及びフーコン作戦の展開

四 イムパールに向う進攻作戦

五 イムパール作戦の頓挫

六 シビュー山系への退却

0015

七才二十八軍の完作戦計畫

才二章 臺灣及び北滿の作戦

一、フロン作戦の終焉

二、ミートキナノ失陥

三、雲南正面才五十六師團の奮戦

四、断才一期作戦

五、拉雷、騰越守備隊の玉碎

六、断才二期作戦

七、才五飛行師團の奮戦

才三章 イラワヂ河畔の会戦

一、ビルマ方面作戦計畫の変更

二、才十五軍イラワヂ河への転進

三、盤会戦計畫

四、盤決戦



五、完作戦

才四章 大陸打通作戦

一、虎号兵棋

二、作戦準備

三、京漢作戦

四、湘桂作戦の敢行

才八篇 比島決戦

才一章 小磯内閣の基本政策

一、マリアナ喪失に伴う大本營陸軍部の戦

争指導構想

二、最高戦争指導会議の設置

三、戦争指導上の諸問題に關する検討

四、国力の推移とその後の見透し

0016

五 世界情勢判断及び戦争指導大綱の

御前会議決定

才二章 小磯内閣対外政策の進展

一、対ソ施策―特派使節拒否さる

二、対独施策―独威勢不振に伴ふ措置

三、対重慶工作

四、大東亞政略指導

才三章 小磯内閣国内施策の進展

一、国力運営

二、輿論指導

三、国内防衛方策

四、液体燃料確保対策

才四章 捷号作戦準備

一、大本営の新作戦方針

二、捷号作戦準備要綱

三、戦術、戦法に関する新構想

四、現地各軍の捷号作戦準備

五、聯合艦隊の捷号作戦準備

才五章 捷一号作戦の概定と台湾沖航空戦

一、ペリリュー、モロタイの戦斗

二、決戦方面の概定

三、台湾沖航空戦

才六章 レイテ決戦の発起

一、敵のレイテ来攻

二、捷一号作戦の発動

三、航空作戦

四、地上作戦

五、油槽船問題

0017

才七章 レイテ沖海戦

一、聯合艦隊の作戦要領

二、海上各部隊の機動

三、サマール沖海戦

才八章 レイテ決戦

一、大本営の指導

二、航空作戦

三、才三十五章のレイテ会戦

四、レイテ作戦の終結

五、船舶問題

才九章 呂宋島作戦

一、戦のミンドロ島上陸

二、才十四方面軍の作戦要領

三、敵の呂宋島上陸

四、北部呂宋の持久作戦

五、南部呂宋の持久作戦

才十章 大田打通作戦の終結

一、才六方面軍の新設

二、浙東作戦

三、桂林、柳州の攻略

四、粵漢打通作戦

才十一章 南西方面の作戦

一、昭和二十年初頭の南西方面作戦指導

二、マ号作戦―佛印武力処理

三、その後のビルマ戦線

0018

才四卷 目次

才九篇 本土防衛

才一章 南北兩国防圍域の分断と日滿

華の孤立化

一、本土決戦思想の萌芽

二、本土防衛の為の国内施策

三、本土防衛に關聯する對滿、華施策

才二章 大本營の新作戦方針

一、情勢判断

二、昭和二十年初頭の本土防衛態勢

三、新作戦方針

才三章 新作戦方針に基く作戦準備

一、全般指導

二、本土方面

㊦

三、台湾及び南西諸島方面

四、中國方面

才四章 戦争指導機構の強化

一、和平氣運の抬頭と小磯首相の継戦構想

二、小磯首相大本營に列す

三、陸海合同問題

才五章 硫黄島の作戦

一、彼我の状況

二、硫黄島の攻防

才六章 沖繩作戦

一、九州沖航空作戦

二、米軍の沖繩上陸

三、航空総攻撃と才三十二軍の戦斗

0019

四、天号作戦の続行

五、沖繩の失陥

才七章 大本營の本土決戦準備

一、敵情判断

二、決号作戦準備要綱

三、本土決戦統帥組織

四、航空及び海上部隊の反撃計画

五、本土決戦の思想と戦況

才八章 西日本の作戦準備

一、米軍の攻撃計画判断

二、九州決戦の意義

三、航空特攻作戦準備

四、海上特攻作戦準備

五、地上作戦準備

(欠)

才九章 東日本の作戦準備

一、米軍の企図判断

二、航空及び海上特攻準備

三、地上作戦準備

四、帝都防衛

五、米軍本土分断作戦に対する準備

才十章 爾仲方面の対米作戦準備

一、北東方面

二、朝鮮方面

三、中国方面

才十一章 対ソ作戦準備

一、ソ連の対日企図判断

二、対ソ作戦方針の改定

三、関東軍の対ソ作戦準備

0020

四、陸東軍の増強

五、北東方面の対ソ作戦準備

才十二章 本土に於ける防空作戦

一、空襲の激化

二、空襲の被害

三、我が防空作戦

才十篇 終 戦

才一章 鈴木内閣の成立

一、天皇の憂慮

二、小磯内閣の崩壊

三、鈴木海軍大将に大命降下

四、組閣に關する陸海軍の折衝

五、外務大臣問題と組閣の完了

才二章 対ソ工作の開始

一、対ソ工作討議への動き

二、五月中旬の対ソ工作秘密討議

三、対ソ予備交渉の開始

才三章 本土決戦態勢の整備

一、国民戦斗組織

二、船舶、港湾の一元化運営

三、地方行政組織の臨戦化

四、軍事特別措置法

才四章 六月八日の基本国策

一、本土決戦政策確立への動き

二、国力の現状

三、世界情勢判断

四、基本政策

0021

五、六月六日の最高戦争指導会議

六、六月八日の御前会議

第七章 天皇の終戦意図

一、木戸内府の時局収拾対策

二、天皇の六巨頭召集

三、対ソ工作の具体化

第八章 ボツタム宣言

一、英米支三国宣言の発表

二、日本の態度

第九章 原子爆弾とソ連の参戦

一、原子爆弾

二、ソ連の参戦

第十章 終戦の聖断—八月十日の御前会議

一、八月九日の最高戦争指導会議

二、和平についての最初の閣議

三、八月十日の御前会議

四、聖断に伴う対内外処置

第九章 終戦の聖断—八月十四日の御前会議

一、四国回答の授受

二、最高戦争指導会議及び閣議再び分裂す

三、八月十四日最後の断下る

四、終戦の詔勅発布

第十一章 終戦時の陸海軍

第一章 陸海軍の承諾必謹

第二章 本土

第三章 満洲方面

第四章 支那方面

0022

あとがき

- 才五章 南西方面
- 才六章 南東方面
- 才七章 中部太平洋方面
- 才八章 海軍の態勢

以

上

0023